

施設長 各位

那覇市医師会
会 長 友利博朗
理 事 宮城政剛



日本医師会「新型コロナウイルス感染症第8波(季節性インフルエンザとの同時期流行)、
年末年始等に向けた発熱外来診療体制に関する状況把握調査」について(ご協力をお願い)

平素より医師会事業へのご支援ご協力賜り感謝申し上げます。

沖縄県医師会より「日本医師会「新型コロナウイルス感染症第8波(季節性インフルエンザとの同時期流行)、
年末年始等に向けた発熱外来診療体制に関する状況把握調査」について(ご協力をお願い)」の通知が届きました
のでご案内申し上げます。

別紙は当会ホームページにも掲載致しますので、お手数ですがダウンロードをお願いします。

☆ 問合せ先(那覇市医師会 事務局:石垣・前泊 /電話 098-868-7579)

.....記.....

冲医発第1406号
令和4年12月19日

地区医師会担当理事 殿

沖縄県医師会
副会長 宮里達也

日本医師会「新型コロナウイルス感染症第8波(季節性インフルエンザとの同時期流行)、
年末年始等に向けた発熱外来診療体制に関する状況把握調査」について(ご協力をお願い)

今般、日本医師会から標記文書の発出がありましたのでご連絡致します。

新型コロナウイルスと季節性インフルエンザの同時流行への備えに関しては、各都道府県策定の「外来医療体制整備計画」によると、本年11月末現在の全国の最大診療能力が約90万人分に達する(別添参照)等、各地域において医療提供体制が構築されつつあります。

こうした経緯を踏まえ、日本医師会としても次の感染拡大や季節性インフルエンザとの同時流行、また、年末年始等に向けた発熱外来診療体制に関する全国の医師会の対応状況等を把握する為、調査を実施するとの事です。

本文書は、日本医師会から直接貴会宛にも送付されていることと存じますが、改めてご了知のうえ、貴管下関係医療機関等への周知方につきご高配を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

記

- 日本医師会「新型コロナウイルス感染症第8波(季節性インフルエンザとの同時期流行)、年末年始等に向けた発熱外来診療体制に関する状況把握調査」について(ご協力をお願い)

(令和4年12月9日日医発第1765号(地域)(健II))

※関係文書は文書管理システムへ掲載致します。

沖縄県医師会事務局業務2課:高良、平良
TEL:098-888-0087
FAX:098-888-0089
g2@okinawa.med.or.jp

日医発第 1765 号（地域）（健Ⅱ）

令和 4 年 12 月 9 日

都道府県医師会会長 殿

郡市区医師会会長 殿

公益社団法人日本医師会

会長 松本吉郎

（公印省略）

**日本医師会「新型コロナウイルス感染症第 8 波（季節性インフルエンザとの同時期流行）、年末年始等に向けた発熱外来診療体制に関する状況把握調査」
について（ご協力のお願い）**

貴職におかれましては、新型コロナウイルス感染症対策に精力的に取り組んでいただき、誠にありがとうございます。

さて、新型コロナウイルスと季節性インフルエンザの同時流行への備えにつきまして、各都道府県「外来医療体制整備計画」によれば、貴会をはじめ各関係者の方々のご尽力により、本年 11 月末現在の全国の最大診療能力が約 90 万人分に達する（別添参照）等、各地域において医療提供体制が構築されつつあります。

こうした経緯を踏まえ、本会として、次の感染拡大や季節性インフルエンザとの同時期流行、また年末年始等に向けた発熱外来診療体制に関する全国の医師会の対応状況等を把握するため、調査を実施させていただきたく存じます。

つきましては、正にコロナ対応等でご多忙の中大変申し訳ありませんが、標記調査にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

添付文書

- ・日本医師会「新型コロナウイルス感染症第 8 波（季節性インフルエンザとの同時期流行）、年末年始等に向けた発熱外来診療体制に関する状況把握調査」調査票
- ・参考資料：
 - ・新型コロナウイルスと季節性インフルエンザの同時流行に備えた外来医療体制等の強化について
 - ・各都道府県における外来医療体制整備計画（令和 4 年 11 月末時点）

日本医師会

新型コロナウイルス感染症第8波（季節性インフルエンザとの同時 期流行）、年末年始等に向けた発熱外来診療体制 に関する状況把握調査

1. 目的：第8波や年末年始に備えた体制づくりの把握
2. 対象：都道府県医師会、郡市区医師会
3. 期限：12月21日（水） ※それ以降も回答を受け付けます。
4. 回答方法：原則 WEB フォーム（紙媒体可：FAX・メール）

<https://forms.gle/a9W2vEnwPWwv35RKA>



- ※ 都道府県医師会の場合は、県下全域あるいは地域の発熱外来診療体制の構築（参加医療機関の取りまとめ等）に関わっておられる場合にお答えください。
- ※ 各医師会、1名のみお答えください
（一つの医師会から複数の回答があった場合は、最後の回答を採用します）
- ※ 管下の地域（複数の市区町村など）によって体制が異なる場合は、人口が多い地域を対象としてください。
- ※ 調査結果は、特に了承を得ない限り、医師会等の団体や個人が特定される形での公表は致しません。

お問い合わせ先
公益社団法人日本医師会
地域医療課 青木、塚本
TEL 03-3942-6137
FAX 03-3946-2140
Email chiiki_1@po.med.or.jp

日本医師会「新型コロナウイルス感染症第8波（季節性インフルエンザとの同時期流行）、年末年始等に向けた発熱外来診療体制に関する状況把握調査」

※原則 WEB にてご回答ください。

都道府県名 _____

医師会名 _____

ご担当者名 _____ お役職 _____

(本会より問い合わせる場合があります)

問1. 診療・検査医療機関の状況、医師会の関与の内容について教えてください。

1-1. 「発熱外来は、自院をかかりつけ医としている患者のみを対象とする」医療機関への対応について（いずれか一つの選択肢を選んでください）

1. 当地域には、かかりつけの患者のみを発熱外来の対象としている医療機関は存在しない
2. かかりつけの患者以外の者も発熱外来の対象とするよう働きかけ
3. 重症化リスクの高い患者が多くいる等の特別の事情がある診療・検査医療機関には、かかりつけの患者以外の者を対象とすることを働きかけることはしない
4. 特段の理由はないが、働きかけはしていない

1-2. 診療・検査医療機関の自治体ホームページ等での公表状況について（いずれか一つの選択肢を選んでください）

1. 当地域は、全ての診療・検査医療機関が公表している
2. 公表していない診療・検査医療機関に対し、公表するよう働きかけ
3. 重症化リスクの高い患者が多くいる等の特別の事情があるため、公表を希望しない診療・検査医療機関には、公表を働きかけることはしない
4. 特段の理由はないが、働きかけはしていない

問2. 【センター方式：医師会施設（医師会館、休日夜間診療所等）や拠点的な病院の発熱外来への交代制での出務】について教えてください。

2-1. センター方式の実施状況（いずれか一つの選択肢を選んでください）

1. 医師会として実施している（行政からの委託を含む）
2. 医師会として実施していない → 次の大問（問3）へ

2-2. 実施場所について（いずれか一つの選択肢を選んでください）

1. 医師会施設（医師会館、医師会病院、医師会休日夜間診療所等）
2. 市立病院等の拠点的な病院
3. 市民ホール・公民館等の公的な施設や民間施設
4. 選択肢1～3の複数の施設を併用
5. その他（ ）

2-3. 自院ではコロナ対応をしていない医師会員の出務の有無について（いずれか一つの選択肢を選んでください）

1. 自院ではコロナ対応をしていない会員が、診療科を問わず幅広く出務している
2. 自院ではコロナ対応をしていない会員のうち、主に内科や小児科等、感染症に関わりの深い診療科の医師が参加している
3. 自院でコロナ対応をしていない医師会員の出務は、ない

2-4. 感染症とはあまり関連しない診療科の医師に参加してもらうための取組（マニュアル、研修等）の有無と概要について

問4. 今夏の第7波を超える新規感染者数の発生や、季節性インフルエンザとの同時期の流行に備えた体制づくりについて教えてください。

4-1. 体制づくりの方針について（いずれか一つの選択肢を選んでください）

- 1.重症化リスクが低い者についても、対面による発熱外来診療体制の原則維持（電話診療・オンライン診療は極力回避）
→ 次の大問（問5）へ
- 2.あるタイミングで、重症化リスクが低い者については電話診療・オンライン診療による発熱外来に切り替え
- 3.現在検討中、未定
→ 次の大問（問5）へ

4-2. 前問で選択肢2.を選んだ場合について、切替のタイミングを教えてください。

問5. 他の地域にとって参考となりうる好事例などの取組を教えてください。

問6. 国や日本医師会に対する意見があればお書きください。

設問は以上です。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

新型コロナウイルスと季節性インフルエンザの同時流行に備えた外来医療体制等の強化について

- 同時流行下、ピーク時には1日75万人規模の患者が生じた場合でも、限りある医療資源の中で重症化リスクの高い方に適切な医療を提供するため、10月17日、都道府県等に対し「外来医療体制整備計画」（以下、計画）の策定を求める事務連絡を发出。
- 各都道府県において、11月14日までの1か月間に、地域の医師会等と協議の上、①ピーク時の患者数、外来の受診見込者数等を推計するとともに、②診療・検査医療機関（いわゆる発熱外来）等の診療能力（1日当たり診療可能人数）を把握し、①と②の比較検討を踏まえた外来医療体制の強化、健康フォローアップセンター（以下、健康FUC）の体制の強化を計画。今般、これらの計画を基に、国において取りまとめ、公表するもの。

I. 診療・検査医療機関をはじめとする外来医療体制の整備

➢ 重症化リスクの高い方（高齢者、基礎疾患を有する方、妊婦）・小学生以下の子どもに適切な医療を提供するため、外来医療体制を一段と強化。

＜需要の推計＞各都道府県において、ピーク時の1日当たり患者数等を推計。

患者数 (新型コロナウイルス)	健康FUCへの 登録見込者数	発熱外来等 受診見込者数
81万人(45万人、37万人)	7万人 ^{注1・2}	75万人 ^{注1}

注1) 各都道府県独自の推計が含まれるため、健康FUCへの登録見込者数+発熱外来等受診見込者数と患者数は一致しない
注2) 都道府県が推計した、基礎疾患を有する者及び妊婦を除く、中学生から64歳の新型コロナウイルス患者の約23%

＜供給の強化＞上記の推計と、各都道府県が調査等により把握した管内の診療能力（1日当たり診療可能人数）を比較検討。従前から強化を続けてきた外来医療体制について、年末年始も見据え、土日祝日を含め、一段と強化。

	管内の診療能力	強化分	最大診療能力
全体	76万人	+13万人 ^{注3}	90万人
発熱外来等の強化	76万人	+11万人 ^{注4}	87万人
自治体が関与・要請する電話・オンライン診療の強化	0.6万人	+1.8万人 ^{注5}	2.3万人
土曜日	45万人	+11万人	55万人
日曜日	12万人	+11万人	23万人

※端数処理の影響で内訳の計が一致しない場合がある

電話・オンライン診療体制整備の例

東京都：今後の感染状況に応じて、臨時オンライン発熱診療センターを開設予定。対象者を重症化リスクの低い方に限定し、診療から薬の受取まで対応。
大阪府：24時間対応可能なオンライン診療・往診センターの運用を既に開始。患者の希望に応じて、オンライン診療や往診をコーディネート。

II. 健康フォローアップセンターの体制の整備等

➢ 重症化リスクの低い方が安心して自宅療養をできるようにするために必要な環境を整備。

○今冬における1日当たりの最大登録人数

(計画策定前の対応能力→計画に基づく体制整備後の対応能力)

- 登録内容の確認等に従事するスタッフ（医師、看護師、事務職等）の増強等により体制を強化。（31都道府県）



※体調悪化時等の相談対応についても、相談対応スタッフ（医師、看護師等）や電話回線の増強等により、21の都道府県にて体制を強化。

＜外来医療体制の強化分の内容＞

注3) 多くの地域において、対面診療の更なる強化を図る一方、大都市部においては併せてオンライン診療の強化を図るなど、地域の医療資源等の実情に応じて様々な対応を組み合わせ。

注4) 各都道府県において、診療時間の拡大（42地域）、箇所数の増加（33地域）、かかりつけ患者以外への対応（16地域）等を組み合わせ。このほか、地域の医療関係者の協力を得て、地域外来・検査センターを強化（16地域）。

注5) 診療・検査医療機関の箇所数は、計画に基づき更なる増加が図られ、今夏のピーク時（39,915：8月24日時点）と比べて、1,500程度の増加が見込まれる。なお、直近の箇所数は41,384（11月30日時点）である。

注5) 大都市部中心に14地域（8地域増加）において、外来のひっ迫時に備えて対面診療を補完する体制を強化。なお、自治体の関与・要請の有無に関わらず、今夏のピーク時の電話・オンライン診療の件数は8月の180万件（1日当たり6万件）。

